

第13回フィジカルヘルス・フォーラムのご報告

第14回フィジカルヘルス・フォーラムのご案内

平成23年4月5日

国立大学法人保健管理施設協議会フィジカルヘルス委員会 副委員長 守山敏樹
フィジカルヘルス・フォーラム会長 大塚盛男

第13回フォーラム・コーディネーター 大阪大学保健センター 守山敏樹 教授

去る3月11日に発生した東日本大震災で被災されました大学及び関係の皆様にご心よりお見舞い申し上げます。また、被災されました大学や地域の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

第13回フォーラムは、このように直前に発生した大震災により開催が危ぶまれましたが、コーディネーターおよびフィジカルヘルス・フォーラム会長、フィジカルヘルス委員長、施設協議会会長等関係者間で相談させていただき、予定されていたプログラムに加えて、大規模災害に対する大学の備え、発生時の対応、支援など、直前の非常事態を受けた討論も行うことで開催を決定させていただきました。被災された皆様や後期試験の追試験や計画停電に伴う交通機関の停止などによりご参加いただくことのできなかった皆様には、事前に十分なお相談・ご案内ができなかったことにつきまして、お詫び申し上げます。

今回のフォーラムでは、1日目にフィジカルヘルス関係として大学の安全衛生管理に関わる法令についてのシンポジウムが行われ、現状の法令の不備と法改正への動きについて熱心な討論が行われました。続いて、今回の大震災を受けた緊急企画が行われ、被災した大学への支援などについて有意義な意見交換が図られました。2日目は、これまで取り上げられてこなかった学生支援・保護者支援の問題についてのシンポジウムと特別講演及び学生・教職員の自殺の問題に関する講演が行われ、フィジカルヘルスを主に担当する会員の多い組織ではあるものの、保健管理施設の医療関係者や産業医として学生支援や学生・教職員のメンタルヘルスにも関与することが求められている現状から、大変勉強になる有意義な内容であり、熱心な討論が行われました。84人の会員・オブザーバーの方が参加されましたが、ご参加いただくことのできなかった皆様には、後ほどコーディネーター校から送付予定の報告書をご覧いただければ幸甚に存じます。

第1日 3月17日(木)

1. 企画1 シンポジウム「大学と安全衛生関連法令」

1) 講演「国立大学七大学安全衛生担当者会議の対応と今後の法改正への動き」 大阪大学安全衛生管理部 山本 仁先生：国立大学七大学安全衛生担当者会議で議論された内容をまとめた中間報告の概要が報告され、大学における学生・教職員の安全衛生管理や安全衛生に関連する現行法令の問題点と望むべき体制を指摘された。この会議を受けて法改正の動きがあることや韓国における類似の法令についての紹介があり、法令の具現化に向けた大学間の連携の重要性が強調された。

2) 講演「大学における安全衛生管理の現状と学校保健安全法の問題点」 筑波大学保健管理センター 大塚盛男：国立大学法人保健管理施設協議会大学保健安全法に関する調査研究班で調査した国立大学法人における安全衛生管理の現状を基に検討した学校保健安全法の問題点について報告があり、大学間における安全衛生管理の体制や内容に差がかなり認められることや大学における学生の健康管理を学校保健安全法で行うには難しい点が多々認められることが指摘された。

3) 講演「大学・研究機関の安全衛生を考える研究会の設立に向けて」 信州大学医学部公衆衛生学 塚原照臣先生：産業衛生学会内に大学・研究機関の安全衛生を考える研究会を設立することが紹介され、その設立の意義や活動の内容についての報告があった。大学・研究機関の安全衛生管理に対応した法令の制定のためにも重要な方向と考えられ、今後連携が必要であると考えられた。

2. 緊急企画 「保健管理施設の災害対応」

1) 「被災時の活動」 神戸大学保健管理センター 馬場久光先生：阪神淡路大震災の際に神戸大学保健管理センターとして行った被災者への医療活動について紹介があった。また、被災学生・職員への PTSD 対策、災害情報提供、食糧確保、出勤訓練など、大災害に備えた日常の注意の重要性を強調された。

2) 「被災地への支援」 大阪大学安全衛生管理部 山本 仁先生：今回の東北関東大震災に被災された大学等に対する大阪大学としての支援取り組み状況及び国立大学間の連携状況について報告があった。

3) 「日常の対策」 静岡大学保健管理センター 池谷直樹先生：近い将来発生が危惧されている東海大地震に備えた静岡大学の取り組み（地震・防災関係の授業や新入生対象の防災訓練など）について紹介があった。また、災害時医療のポイントとして、自己トリアージ、避難想定、応急処置などについての教育や災害後の PTSD 対策の重要性を指摘された。

3. 業務連絡 (1) 次期開催校：次回・第 14 回開催校の東北大学飛田先生は、震災のためご出席できなかったが、予定通り開催のご意向であるとのことから、今後開催日等についてご相談させていただき通知することとなった。また、第 15 回開催校は委員長の立身先生と相談していくこととなった。(2) フィジカルヘルス委員会委員及びフォーラム役員：関東甲信越地区及び東海北陸地区から新たにフィジカルヘルス委員会委員及びフォーラム役員に就任された東京医科歯科大学三宅先生、北陸先端科学大学院大学林先生からご挨拶があった。(3) フォーラム会則の変更：会則の一部を変更し、本会への新規加入申込みはフィジカルヘルス委員会委員長に行い、委員長から事務局に加入の連絡をすることで了承された。(4) 自己紹介：新しく会員になられた先生方の自己紹介があった。参加者数 84 人

第 2 日 3 月 1 8 日 (金)

4. 企画 2 シンポジウム「学生支援の現状と展望」

1) 「学生支援におけるリスク管理—キャンパスカルトの予防から—」 大阪大学学生支援ステーション 学生生活相談ユニット 太刀掛俊之先生：カルト活動の把握、教職員や家族への情報提供、課外団体の活動状況把握など、大阪大学において実施しているカルト対策について紹介があり、学生がカルトに入る動機とそれに対する大学の対応策が述べられた。

2) 「障害や慢性疾患のある学生への修学支援—合理的配慮 (reasonable accommodation) の観点から—」 大阪大学学生支援ステーション障害学生支援ユニット 松原 崇先生：大阪大学における障害学生の状況と障害学生支援ユニットの役割・活動内容について報告があった。大学の支援や個人の努力の範囲は事例・エピソードごとに決める必要があるが、支援の基準は合理的配慮の観点から考えていくことが重要であると強調された。

3) 「全国国立大学における障害学生修学支援状況と本学における取り組み」 福岡教育大学保健管理センター 宮田正和先生：国立大学法人保健管理施設協議会障害学生修学支援に関する特別委員会において平成 21 年度に実施したアンケート調査結果からみられる国立大学における障害学生の現状や支援状況及び福岡教育大学における実態について紹介があり、障害学生支援における大学の責任や障害学生の個人情報提供の在り方が述べられた。

4) 「留学生への健康支援について」 静岡大学保健管理センター 池谷直樹先生：国立大学法人保健管理施設協議会留学生問題特別委員会において平成 21 年度・22 年度に実施したアンケート調査結果の紹介があり、留学生への健康支援として結核対策の重要性が強調された。また、入学時の健康診断書提出や留学生を対象とした健康診断項目の実施の是非について討議があった。

5. 企画 3 特別講演「大学における保護者支援の実際と今後の課題」 甲南大学文学部教授／学生相談専任カウンセラー 高石恭子先生：大学における教育者ならびに学生相談カウンセラーとしての知見や経験に基づいて、多様化している現代の学生の実態、多様で複雑な保護者の要望、学生・保護者・大学間の関係などについて、今高等教育の現場で起きていること、今日の学生期の親子関係と子どもの育ち、大学における保護者支援の実際、求められる新たな援助の視点という観点から、今後の学生支援および保護者支援にどのように対応したら良いかについて、具体的でわかりやすくご講演をいただいた。

6. 企画 4 「大学における自殺の現状とその予防的対策」

1) 「学部学生における自殺の現状と問題点」 茨城大学保健管理センター 内田千代子先生：国立大学法人保健管理施設協議会で実施している大学における休・退学、留年学生に関する調査結果からみられる学部学生の自殺者の実態についての報告があった。過年度生や 4 年生において自殺率が高いこと、自殺学生が精神疾患として診断されている率や保健管理施設を利用している率が低く、診断も治療も受けずに自殺する学生が多いことから、これらの学生を保健管理施設に繋ぐための対策の検討が必要であると強調された。

2) 「大学院学生における自殺の現状と問題点」 東京工業大学保健管理センター 安宅勝弘先生：国立

大学法人保健管理施設協議会で実施している大学における休・退学、留年学生に関する調査結果からみられる大学院学生の自殺者の実態についての報告があった。大学院学生も学部学生と同様に休学や留年生の割合が高く、診断も治療も受けずに自殺する学生が多いこと、大学院生のストレス要因として研究活動やキャリアパスなどの問題が考えられることから、研究室における一次予防への啓発活動の必要性を述べられた。

3) 「自殺の内景：誰がなぜ死ぬのか。どうやれば防げるのか」 秋田大学保健管理センター 苗村育郎先生：大学保健管理施設で対応された学生の分析結果について報告され、希死念慮の強い学生への対応の必要性を強調された。

2) 「自殺予防のための具体的な対策」 佐賀大学保健管理センター 佐藤 武先生：産業医として教職員の自殺予防対策に取り組むにあたり、労働安全衛生法に基づくメンタルヘルス対策や復職支援対策などについての具体的な方策を述べられた。

第14回フィジカルヘルス・フォーラムのご案内

コーディネーター 東北大学保健管理センター 飛田 渉教授

日時 未定

場所 未定

日程等については後日ご連絡いたします。多数のご出席を宜しくお願い致します。